



# キュリー夫人

# 科学伝記読書感想文



2011年は「世界化学年」です。化学をよりよく理解し興味をもってもらうために、日本でも世界化学年日本委員会\*のもとで、さまざまな活動が計画されています。その一つとして、小・中学生の皆さんに、科学者キュリー夫人を通して化学をより身近に感じてもらうことを目的として、「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」を企画しました。なお、2011年はキュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目にあたります。みなさんのご応募をお待ちしています。

応募要項の詳細：<http://www.iyc2011.jp/curie-j.html>

\*委員長：野依良治（2001年ノーベル化学賞受賞者）

## 応募者の資格および部門

応募者は日本の小中学校に在籍する児童・生徒に限ります。2011年3月1日現在の在籍状況により2部門に分けて募集します。

- ・ 小学生部門（4～6年生）
- ・中学生部門（1～3年生）

## 図書

下記の図書を参考にして、自分で選んでください。

「キュリー夫人」伊東 信 著（ポプラ社）

「キュリー夫人」ドーリー著

・中村妙子訳（ポプラ社） ・榊原晃三訳（偕成社） ・桶谷重雄訳（講談社）

・中山知子訳（講談社） ・光吉夏弥訳（岩波書店）

「キュリー夫人」エーヴ・キュリー著

・河野万里子訳（白水社） ・川口篤ほか訳（白水社） など

主催：一般社団法人日本化学連合 共催：世界化学年日本委員会

共催：化学工業日報社 協賛：(独)科学技術振興機構

後援：内閣府\* 文部科学省 日本学術会議\* 全国都道府県教育委員会連合会 駐日ポーランド共和国大使館  
全国学校図書館協議会 全国中学校理科教育研究会 日本私学教育研究所 全国小学校理科教育研究会  
日本私立小学校連合会 朝日新聞社 科学新聞社 産経新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 (\*依頼中)

# 2011年は化学の年

## 書き方

- ① 400字詰め原稿用紙(縦書き)に自筆して下さい。(コピー・ワープロは不可)
- ② 文字数 小学生部門:1200字以内 中学生部門:2000字以内
- ③ 句読点はそれぞれ1字に数えます。改行のための空白箇所も字数に数えます。
- ④ 1行目に題名、2行目に学校名、氏名を書いて下さい。これらも上記字数に含めます。

## 募集期間

2010年12月1日(水)～2011年4月10日(日) (当日消印有効)  
冬休みと春休みを利用して書いて下さい。

## 応募作品

- ① 応募は日本語で書かれた作品に限ります。
- ② 応募は個人のオリジナルで未発表の作品に限ります。他の類似コンクールとの二重応募は認めません。
- ③ 作品は理由を問わず返却しません。
- ④ 入賞作品の著作権、出版権は主催者に帰属します。

## 作品の提出

- ① 児童・生徒から直接下記提出先に郵送で提出して下さい。(在籍校を通じての提出は必要ありません)  
提出先: 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5 化学会館3F  
日本化学連合事務局 読書感想文コンクール係
- ② 別掲の応募票(コピー可)に必要事項を明記し、作品の上に貼付けして右肩をとじてください。

## 審査

審査は、学校関係者および学識経験者などで構成される委員会で行います。

## 入賞発表

以下の賞を選考し、受賞者本人あてに通知し、同時に一般社団法人化学連合と世界化学年日本委員会のホームページにも掲載します。「化学工業日報」「その他新聞」紙上に掲載されることがあります。

最優秀賞(小学生・中学生 各1名) 優秀賞(小学生・中学生 各若干名)  
審査員特別賞(小学生・中学生 各若干名)

## 表彰

受賞者に表彰式(時期:8月上旬 場所:ポーランド大使館)で、賞状および副賞を贈呈します。

## 個人情報の取り扱い

応募に当たって記載された情報は、上記結果の公表や通知などに限って使用させていただきます。

<http://www.jucst.org/> TEL 03-3292-6010 FAX 03-3292-6319

一般社団法人日本化学連合事務局

〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5 化学会館3F 読書感想文コンクール係

mail : [event@jucst.org](mailto:event@jucst.org)

# 応 募 票

応 募 者	ふりがな				男・女
	氏 名				
募 者	学校所在地	都道 府県	郡	市区 町村	
	ふりがな				
読 ん だ 図 書	学校名	学校			
	部・学年	小学・中学	学年	年	
	連絡先	住所：			
		電話： - -	FAX： - -		
読 ん だ 図 書	図書名				
	著者・訳者				
	シリーズ名・文庫名				
	発行所			発行年	
	(参考にしたものがある場合は、下記に記入して下さい)				

1. わかりやすく楷書で記入し、作品の上に貼付して右肩をとじてください。
2. 学年は、2011年3月1日時点を入力してください。
3. 太字部分は、該当事項を○で囲んでください。

# 2011年は化学の年

## 世界化学年2011

2008年末に開催された国際連合総会で、キュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目に当たる2011年を「世界化学年」とすることに決まりました。

(International Year of Chemistry: IYC2011)

統一テーマ：“化学は新たな価値を造り、未来社会を支える”

"Chemistry - our life, our future"

- ① 化学に対する社会の理解増進
- ② 若い世代の化学への興味の喚起
- ③ 創造的未來への化学者の熱意ある貢献への支援
- ④ 女性の化学における活躍の場の支援

### 世界化学年日本委員会

我が国における世界化学年を企画・実行する主催組織として「世界化学年日本委員会」が、2010年8月6日に発足しました。「世界化学年日本委員会」の旗の下で、学協会・工業協会・関連団体などが一致連携する体制で、世界化学年の趣旨に沿った諸事業を推進します。現在計画中の主な事業を下記ホームページで紹介していますので奮って参加願います。

<http://www.iyc2011.jp/>

**委員長:** 野依良治 理化学研究所理事長 (2001年ノーベル化学賞受賞者)

**副委員長:** 岩澤康裕 日本化学会会長 御園生誠 日本化学連合会長

**委員:** 有馬朗人 今栄東洋子 北澤宏一 郷 通子 小林喜光 近藤信司 高橋恭平  
竜田邦明 巽 和行 西出宏之 藤嶋 昭 藤吉建二 毛利 衛 米倉弘昌(敬称略)

**オブザーバー:** 内閣府 文部科学省 経済産業省 新聞・放送関係 など

### 世界化学年に賛同する 27団体 <http://www.iyc2011.jp>

安全工学会 (財)化学技術戦略推進機構 (社)化学工学会 (社)化学情報協会 クロマトグラフィー科学会  
光化学協会 (社)高分子学会 錯体化学会 (社)色材協会 触媒学会 (社)石油学会 (財)石油産業活性化センター  
(社)繊維学会 (社)電気化学会 (社)日本エネルギー学会 (社)日本化学会 (社)日本化学工業協会  
(一般社団法人)日本化学連合 (社)日本ゴム協会 (社)日本セラミックス協会 日本地球化学会  
(社)日本表面科学会 (社)日本分析化学会 (社)日本薬学会 (社)日本油化学会 (社)表面技術協会  
(社)有機合成化学協会



プレスリリース 平成 23 年 7 月 1 日

日本化学連合主催 世界化学年記念  
キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール  
入賞者決定のお知らせ

2011 年は、キュリー夫人がノーベル化学賞を受賞してから 100 年にあたり、国連において世界化学年と定め、各国で記念行事を進めています（注 1）。日本では、世界化学年日本委員会（委員長：野依良治 理化学研究所理事長）のもと、化学系各学協会・各種団体が記念行事を企画実行中です。

日本化学連合（会長：御園生誠、注 2）では、上記委員会事務局を担当するとともに、独自の企画を進めています。本感想文コンクールはその一つで、小学生（4～6 年）と中学生を対象にキュリー夫人伝記の感想文を募集し、優れた感想文を表彰します（主催：日本化学連合、共催：世界化学年日本委員会、化学工業日報社、後援：内閣府、文部科学省ほか、募集の詳細は注 3 を参照）。

本感想文コンクールには、総計で 470 件の応募があり（小学生 92 件 中学生 378 件）、一次、二次、最終の選考を経て（最終選考委員長：蟻川芳子 日本女子大学学長）、このたび別紙 1 の通り表彰することとなりました。

なお表彰式は、8 月 3 日（水）午後 1 時よりポーランド共和国大使館（東京都目黒区）で開催する予定です（別紙 2）。

<本件の問い合わせ先>

日本化学連合 事務局長 石田裕

住所 : 〒101-0062 千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 3F

電話 : 03-3292-6010 FAX : 03-3292-6319

メールアドレス : ishida@jucst.org

注 1) 世界化学年は、キュリー夫人ノーベル化学賞受賞 100 周年を記念して（なお、彼女にとっては 2 度目のノーベル賞）、国連、ユネスコ、国際純正応用化学連合が世界化学年と定め、統一テーマ “Chemistry-our life, our future” の下、以下の 4 つの目標を掲げて、世界各国が連動して化学に関する啓発・普及活動を行います。

- ① 化学に対する社会の理解増進
- ② 若い世代の化学への興味の喚起
- ③ 創造的未來への化学者の熱意ある貢献への支援
- ④ 女性の化学における活躍の場の支援

注 2) 日本化学連合は、化学関連学協会の連合組織で、メンバー会員の総計は約 12 万人（重複を除いて約 8 万人、2007 年設立）。世界化学年を記念した日本化学連合の企画には、本感想文コンクールの他、カウントダウンシンポジウム（昨年 12 月実施）および化学コミュニケーション賞（募集中）があります。

註3) キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール募集要項(要点)

目的：科学者キュリー夫人を通して科学をより身近に感じてもらう。

応募資格：小学生部門(4~6年生)および中学生部門(1~3年生)。

書き方：小学生部門1200字以内、および中学生部門2000字以内。日本語。

詳細は、下記世界化学年日本委員会ホームページをご覧ください。

<http://www.iyc2011.jp/pdf/006kansoubun.pdf>

別紙 1

キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール入賞者

最優秀賞 小学生部門 岐阜県 海津市立海西小学校 5年 側島 レン  
中学生部門 山形県 山形市立蔵王第一中学校 1年 金生 立樹

優秀賞 小学生部門 神奈川県 横浜雙葉小学校 5年 高城 美帆  
東京都 淑徳小学校 5年 浅田 恵果  
中学生部門 イタリア ミラノ日本人学校 中学部 1年 天野 双葉  
静岡県 不二聖心女子学院中学校 2年 高 裕美子  
富山県 小矢部市立石動中学校 1年 野師本桃子

審査員特別賞 小学生部門 3名 中学生部門 6名

入選 小学生部門 9名 中学生部門 15名

別紙 2

## キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール表彰式予定

開催日： 8月3日（水） 午後1時～午後5時  
開催場所： 駐日ポーランド共和国大使館内ホール（恵比寿駅より徒歩約10分）  
住所：〒153-0062 東京都目黒区三田 2-13-5  
電話：03-5794-7020



### プログラム

午後1時 表彰式（順不同）

演奏会

※演奏者および曲目未定

開会のあいさつ

日本化学連合会長 御園生誠

選考経過・結果報告

選考委員会委員長 日本女子大学長 蟻川芳子

賞状・副賞授与

最優秀賞・優秀賞・審査員特別賞・副賞

ポーランド大使賞・副賞

祝辞

理化学研究所理事長 野依良治

祝辞

駐日ポーランド大使

ヤドヴィガ・マリア・ロドヴィッチ

実験ショー

午後3時 レセプション開会

展示会および立食パーティ

午後5時 閉会

## 小中学生40名が受賞

キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール

表彰式で主催関係者を囲む  
受賞した小中学生ら



(不二聖心女子学院中学校2年)、野師本桃子さん(小矢部市立石動中学校1年)がそれぞれ受賞した。また審査員特別賞として9名が選ばれた。側島レンさん、高裕美子さんには、織田島修化学工業日報社社長から化学工業日報賞として記念の盾が贈られた。

同読書感想文コンクールは、キュリー夫人のノーベル化学賞受賞100年目を記念した世界化学年のイベントの1つで、470件の応募の中から上位40名が入選した。

理化学研究所の野依良治理事長は受賞者に祝辞を贈るとともに、「化学の未来を担う若い力が育っていることを嬉しく思う」と述べ、化学オリンピックメダル受賞者でもある、世界化学年大使の東京大学の廣井卓思氏は「さらに化学に興味をもって好きになり、ぜひ化学オリンピックにも挑戦してほしい」と激励した。

日本化学連合主催、世界化学年日本委員会、化学工業日報社共催による「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」の表彰式が3日午後1時から、東京・目黒区の駐日ポロランド共和国大使館で行われた。入賞者は最優秀賞に小学生部門で側島レンさん(海津市立海西小学校5年)、中学生

部門で金生立樹さん(山形市立蔵王第一中学校1年)が受賞、優秀賞には小学生部門で高城美帆さん(横浜雙葉小学校5年)、浅田恵果さん(淑徳小学校5年)、中学生部門で天野双葉さん(伊ミラノ日本人学校中学部1年)、高裕美子さん



International Year of  
CHEMISTRY  
2011

2011年(平成23年)8月1日(月曜日)

キュリー夫人の伝記感想文コンクールで最優秀賞を受けた

金生 立樹さん 13

# 顔



撮影・飯島啓太

キュリー夫人が放射性物質ラジウムの発見などでノーベル化学賞を受賞してから今年で100年。伝記の感想文が、日本化学会などが企画したコンクールで最優秀賞に選ばれた。福島

第一原子力発電所事故で放出された放射性物質が社会に混乱を招いているが、放射線はまた、医療にも使われ多くの人命を救ってきた。「富や名声ではなく、人の役に立つことが彼女にとって最高

の報酬だった。僕も、知りたいことをとことん追究して、人の役に立ちたい」と話す。

山形市立蔵王第一中学校の科学部で、地域の環境を調べている。学校の前には田んぼが広がり、ドジョウやカエルがすむ。一見、自然豊かな環境だが、川の水を調べて驚いた。水は薄黄色で、アユやイワナの住めない汚染度だった。拾ったゴミが100個以上になる日もあった。ゴミを減らそうと、空き缶を入れるとお菓子が出る空き缶回収箱の製作にも取り組む。

ポーランド大使館で3日に開かれる表彰式では、ノーベル化学賞受賞者の野依良治博士に「研究は世の中でどう役立っていますか」と聞くつもりだ。

(科学部 杉森純)

# 毎 日 新 聞

2011年(平成23年)7月26日(火)

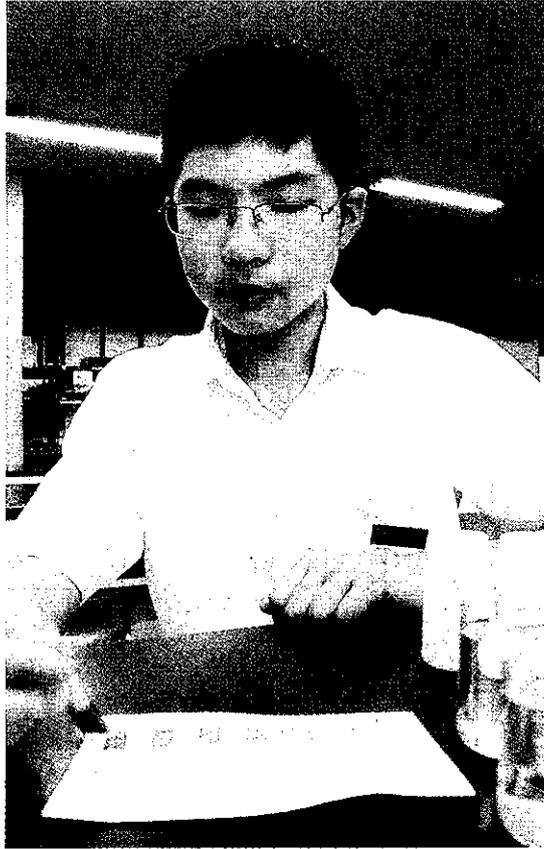
## ◆科学伝記読書感想文 コンクール入賞者決定

世界化学年を記念した「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」(日本化学連合主催)の入賞者が決まった。8月3日、東京都内で表彰式がある。100年前の1911年、マリー・キュリー(キュリー夫人)がノーベル化学賞を受けたことにちなみ、国連などが今年を世界化学年と定めた。計470件の応募があり、最優秀賞には岐阜県海津市立海西小5年の側島レンさん(小学生部門)と、山形市立蔵王第一中1年の金生立樹さん(中学生部門)が選ばれた。優秀賞は次のみなさん(敬称略)。  
所属、学年は今年3月現在)  
神奈川・横浜雙葉小5

年、高城美帆▽東京・淑徳小5年、浅田恵果▽イタリ  
ア・ミラノ日本人学校中学  
部1年、天野双葉▽静岡・  
不二聖心女子学院中2年、  
高裕美子▽富山・小矢部市  
立石動中1年、野師本桃子

## キュリー夫人科学伝記 読書感想文コンクール

# 金生君(蔵王一中) 最優秀秀賞



キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクールで最優秀賞に輝いた金生立樹君  
＝山形市・蔵王一中

日本化学連合(東京都)主催の「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」の中学生部門で、山形市蔵王一中2年の金生立樹君(13)＝同市桜田西5丁目Ⅱが最優秀賞に輝いた。県内では唯一の入賞。同校総合科学部で副部長を務める金生君は「キュリー夫人のように将来は人の役に立つ仕事をしたい」と夢に向かって決意を新たにしている。

2011年はキュリー夫人環。科学者のキュリー夫人がノーベル化学賞を受賞してから100年。国連が「世界もろつのが狙いで、全国から化学年」と定め、日本を含め小学生部門(4～6年生)に世界各国で記念行事が行われ92点、中学生部門に378点がある。コンクールもその一が寄せられた。

都内の小中学校教諭を中心に1次、2次、最終選考(最終選考委員長・蟻川芳子日本女子大学長)を経て両部門合わせて入賞16点、入選24点選ばれた。

金生君の感想文のタイトルは「研究の意味」。貧困や偏見に負けずに研究を続けたキュリー夫人に「自分の好きなことを追究する姿勢、周りの見方や意見に流されない強さを感じた」。ラジウムの精製技術で特許を取らなかった点

## 夫人のように役立つ仕事したいー 夢に向かい 決意新た

について「彼女が求めた報酬は、富や名声ではなく、自分の研究が一人でも多くの人の役に立つということでは」とした。

自身の科学部での活動にも触れ「結果や現状が分かったことだけに満足するのではなく、改善するにはどうするかを考え、納得するまで追究したい」「ほんのわずかでも誰かのために役に立ちたい」などとまとめた。

小学校高学年の時に科学に興味を持ち、蔵王一中で総合科学部に入部。環境をテーマに学校周辺の水質や空気、浮遊粉じんの調査などを行っている。「予想を立てて実験し結果通りにいくと楽しい」と科学の魅力を語る。受賞については「びっくりしたけど、とてもうれしい。今後もさまざまなテーマで研究したい。受賞をきっかけに新たな気持ちで部活や勉強に打ち込みたい」と喜んでいる。

表彰式は8月3日、東京都目黒区の駐日ポーランド共和国大使館で行われる。本県関係の入選者は次の通り。

中学生部門Ⅱ 蘇武鈴奈、石沢瑞穂(いずれも山形七中2年) 佐々木沙慧子(同校3年)

# 化学工業日報

2011年(平成23年)

7月4日 月曜日

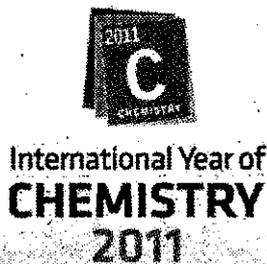
第22131号(日刊、土・日・祝日除く)

キュリー夫人伝記

読書感想文コンク  
ール入賞者が決定

世界化学年記念

日本化学連合(御園生誠会長)が世界化学年記念行事の1つとして主催している「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」の入賞者が決定した。最優秀賞の小学生部門は岐阜県海津市立海西小学校5年の側島レンさん、中学生部門は山形県山形市立蔵王第一中学校1年の金生立樹さんが選ばれた。



応募は合計470件(小学生92件、中学生378件)。1次、2次、最終の選考(最終選考委員長・蟻川芳子日本女子大学学長)を経て最優秀賞2人、優秀賞5人(小学生2人、中学生3人)審査員特別賞9人(小学生3人、中学生6人)、入選24人(小学生9人、中学生15人)が選ばれた。化学工業日報社賞は側島レンさんと静岡県不二聖心女子学院中学校2年の高裕美子さんの2人。表彰式は8月3日午後1時からポロランド共和国大使館(東京都目黒区)で開催される。

## 世界化学年記念

キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール

受賞作品

2011年8月3日表彰

主催： 日本化学連合

共催： 世界化学年日本委員会

化学工業日報社

協賛： 科学技術振興機構

## 最優秀賞 小学生部門

### 偉大な科学者、キュリー夫人が残したもの

海津市立海西小学校

側島 レン

僕はこの本を読んで、偉大な科学者の人生を知り心から尊敬しました。キュリー夫人は、多くの困難と闘い、不屈の精神でラジウムを発見しました。まさに科学に身をささげた人生だったと思います。数々の賞を受賞しても決して名誉におぼれなかったことから、彼女の功績が名声のためではなく、純粋に、人類を救うためのものだったということが分かります。また、すさまじいまでの忍耐力も立派です。ラジウムのために指先をひどく損傷しても挫折しなかったことや、女性であるがゆえに様々な偏見に囲まれても、夢をあきらめなかったところが本当に強いと感じました。生計を立てるために教師の仕事をし、家事や子育てをしながら研究を続けるなんて、僕は考えただけで気が遠くなってしまいます。どうしてこんな過酷なことができたのでしょうか。僕が思うに、キュリー夫人は自然や人を愛する心が強かったし、家族や友人の愛情に支えられていたから、自分の才能を信じて研究し、目標を達成できたのではないのでしょうか。

放射性物質に関する研究は、人類にとって偉大な成功となりました。特にガンを治療する医療は、画期的で驚きました。人の寿命が延びて素晴らしいと思います。実は、僕が放射線に興味を持ったのは、お母さんが放射線治療経験者だったからです。

お母さんは僕を妊娠している時に子宮ガンという病気になりました。だからお母さんはガンが進行するのを覚悟して、僕を出産するために、ガンの手術や治療を遅らせました。そして出産後、子宮を摘出し放射線治療を受けました。放射線はガン細胞を破壊するけれど安全だと聞かされていたからです。確かにお母さんの命は助かりました。しかし放射線治療の後は何ヶ月もひどい下痢が続き、足はリンパ浮腫という病気になりました。

お母さんは現在でも腹痛が毎日あり、一生薬を飲んで生活しなければなりません。将来のことを考えると、出産という目的を達成するための犠牲は大きかったと思います。壮絶な闘病生活の話を知って、僕は胸が張り裂けそうになりました。それから自分がこんなにも愛されていることを知って、感謝の気持ちで涙が止まりませんでした。

僕は今までの人生で、苦しくても希望を持って生きることが大事だということを知りました。その一方で、僕はさらなる放射線治療の発達や、もっと体に負担が少ない化学療法が確立されることを心から望んでいます。

最近では、放射能は医学の検診や病気の治療だけでなく、植物の品種改良や、飛行機のエンジンの整備などにも使われています。原子力の平和利用など、現代の科学技術の発展は、めざましいものがあります。これからも、化学は新たな価値を造り、未来社会を支えていくと、僕は信じています。

## 最優秀賞 中学生部門

### 研究の意味

山形市立蔵王第一中学校

金生 立樹

「大切なのは、研究の対象である自然界に存在するものや現象に好奇心をたやさないことであり、研究をする人間のほうは重要ではない。」

そう、マリー・キュリーはよく語っていたそうです。彼女のその言葉から、世界中の人達に大きな影響をあたえ現在の社会に貢献している研究の裏には、自分の好きな事にとことん追求する姿勢、周りの見方や意見に流されない強さを感じました。先行きが見えず重苦しい社会の雰囲気、器具も資金もとぼしい中での研究、外国人の女性としての偏見……。さまざまな障壁が立ちふさがる中でも、彼女がどうしてもあきらめなかったのは、自分が納得のいくまで『知りたい』という強い好奇心、ただそれだけでした。そして研究の成果を自分だけのものにせず、皆と共有したいとも願っていました。彼女の願いが形となり、こうして今、伝記として多くの人が手にすることができます。

「放射能」という言葉は彼女が考えついたものだと思いますが、ぼくはこの言葉を東日本大震災というでき事を通して、よく耳にするようになりました。原子力発電の問題が生じた事により、多くの方は放射能の被害をおそれています。発電所付近の農家や酪農家の方は、放射能の影響により、家族との生活を支えてきたであろう大切な仕事を失いました。また多くの方は仕事を失っただけでなく、避難所生活を余儀なくされ、住み慣れたその土地を離れなければならないというさみしさを感じているのです。このような点だけ考えてみると、放射能は危険な物であるとか、有害な物であるという印象だけが、私達に残ってしまうかもしれません。しかし視点を変えてみると、この発電所があるおかげで、電気が私達の生活に重要な役割を果たしてきたことは見落とす事のできない事実です。その電気のおかげで、二十四時間営業できる店がたくさんあり、私達の活動できる時間をより長く快適にしてくれています。また、放射線は多くの方の命を救ってきたということもいえます。その一例が、X線です。病気の早期発見、早期治療に貢献してきました。

マリー・キュリーは自分の研究が、世界の放射線医療の発展につながると考え、ラジウムの精製技術の特許を取ること無く多くの人に技術を公開したそうです。ある人が

「特許を取っておけば、莫大な報酬が得られたはずなのに。」

と言った事があるそうです。そのときの彼女の答えに考えさせられました。

「人生最大の報酬は、知的活動によってえられる。」

直接、彼女に聞いたわけではないので、確かなことはわかりませんが、彼女が求めた報酬というのは、富や名声ではなく、自分の研究が一人でも多くの人に役に立つということではなかったのだろうかと思いました。ぼくはその報酬は、本当に貴重で価値のある物だと思いました。

ぼくは彼女のような大きな研究をしているわけではありませんが、科学部に所属する一人として、その研究に対する姿勢や考え方に尊敬し、見習いたい点があります。一つは、自分の意志を貫き通して、知りたい事をとことん追求していくことです。もう一つは、彼女のように、研究を通して他の人の役に立つ事で喜びを感じられるようにしていきたい、ということです。

今、ぼくは科学部で学校周辺の環境について調査研究を行なっています。ぼくの学校の周りでは、田んぼや畑が多くニホンザリガニなどの多くの生物が生息している自然豊かな所です。しかし実際に研究を進めていくうちに、想像以上に川の水や大気が汚れている事がわかってきました。僕は、その結果や現状がわかった事だけに満足するのではなく、なぜこうなるのか、それを改善するためにどうしたらよいかということなどを考え、自分が納得するまで追及していきたいと思うようになりました。そして自分から、身の回りの自然に積極的にはたらきかけることで、ほんのわずかであっても他のだれかのために役に立ちたいと思います。これから研究を進めていく上で、うまくいかない事や難しい事に直面したとしてもあきらめたり妥協したりすることなく、自分の思い描く最終目標に向かってがんばっていきたいと思います。それは、人の役に立つ研究をすることです。

## 優秀賞 小学生部門

### 私の心の支え「化学」

横浜雙葉小学校

高城 美帆

私とキュリー夫人の出会いは三年前の小学校二年生の時でした。学校の図書館で何気なく手に取ったその本が後に私の将来の目標になるとは夢にも思いませんでした。

本を読み終えて多くの事を学び、多くの衝撃を受けたことを今でも覚えています。そして、キュリー夫人についてもっと知りたくなりました。化学についてや生まれた国の事などを調べました。そして、一番興味を持ったことが「元素」についてです。「元素」、まだ小学二年の私には耳なれない言葉でした。しかし「元素」について参考書を読むにつれてますます興味を持ちました。キュリー夫人が発見したポロニウムとラジウムについても調べてみました。すると、どの本にも放射性の元素と書いてありました。それを知り、キュリー夫人は自分の身さえもかえりみず世界のために貢献したのだと思いました。いくつもの困難にも負けず自分の意志を貫き研究を続けたキュリー夫人。それだけ科学に対する情熱が強かったのだと思います。それゆえ、失敗の連続でもあきらめず最後まで努力できたのだと思います。この時から私はキュリー夫人のような化学者になって世界のために働きたいと思うようになりました。

先日の東日本大震災のとき、私は家に一人でいました。父や母、祖父母などと連絡がとれず、停電にまでなってしまったため、ろうそくの火だけが頼りでとても心細かったです。そのときふと、どんな困難にも負けないキュリー夫人の事が頭をよぎりました。彼女ならどうしただろうかと考えました。きっと好きな研究をしていたと思います。それゆえ私も好きな『周期表』という本を読んでいました。母と会えるまでの時間は停電になってから五時間くらいでした。しかし、好きなことをしていたのであつという間にかんじられました。また、私にとって「化学」は心の支えだと感じました。

今回の地震で犠牲になった方々が大勢います。それは、地震が自然災害なので、いつ、どこで、どのくらいの強さでおこるか分からないからだと思います。

私は将来、自然災害のようなまだ誰も分かっていないことを解明して、世界の人たちを救いたいと思っています。そのために、これからも日々の努力をおこたらず、どんな困難が待ちかまえていようと夢へ向かって歩き続けていきたいです。

そして、私の生き方を導いて下さったキュリー夫人に心から感謝しています。

## 優秀賞 小学生部門

### キュリー夫人の科学の精神

淑徳小学校

浅田 恵果

私が初めてキュリー夫人を知ったのは、六歳の時に読んだ伝記の本だった。すごい科学者で、しかも女性ということにとっても感動し、彼女のことが大好きになった。美容室に行っても「キュリー夫人の髪型にして下さい」と頼んでお店の人を困らせた。

それから、キュリー夫人についての様々な本を読み、ますます彼女自身と科学について興味を深めていった。私の夢は、将来科学者になって人類に役立つ研究をすることだ。これには弟も賛成してくれて、「一緒に共同研究しようね。」とよく話している。

キュリー夫人の成功は、“たゆまぬ努力”と科学を愛する“科学の精神”によるものだと思う。彼女が物理学に出会ったのは、お姉さんを助ける為に家庭教師をしていた時だ。そして物理学の面白さ楽しさを知ってからは、どんなに苦しい時でもあきらめずに勉強を続けたのがすごいと思う。パリでの厳しい生活の中で栄養失調になるほど食事を儉約し、あるだけの服を着こみミスのかついで寒さをしのいで勉強した話に、私は深く感動した。そのたゆまぬ努力は結婚後も夫ピエールと続けられ、特にピッチブレンドという鉱石から三年以上かけてやっと0.1グラムの取り出した努力に私は胸をうたれた。

キュリー夫人の“科学の精神”とはいったい何か？私は「自分の為でなくみんなの為そして人類のために科学を研究する」精神だと信じている。初めてノーベル賞を受賞した時も賞金六万フランを寄付し、またもらったラジウムも「もし自分だけの為に使ったら“科学の精神”に反するから」と研究所へおくるよう願った。「科学者だから」とラジウムの特許料を求めないのもこの精神の現れである。

私はこの精神には深い愛もこめられていると思う。キュリー夫人は戦争の時に負傷者を助ける為にレントゲンを乗せた車で、自ら戦場に向かった。さらに驚くべきことは、ずっと愛してきた夫のピエールが亡くなった時に悲しみのどん底にありながら、「それでも科学を続けなければいけない」と研究を続けた事だ。気高い“科学の精神”をもったキュリー夫人を私は女性としてとても誇りに思う。

キュリー夫人の亡き後の原子力の研究は、人類に大きくこうけんした一方で、原子力爆弾など戦争に使われる悲げきも生まれてしまった。キュリー夫人は今天国でこれをどう見てるだろうか？今年三月日本は、東日本大震災でじん大な被害を受け、原子力発電所は今なお大きな問題をかかえている。

私は、今こそキュリー夫人の“科学の精神”を受け継がなければならないと思う。日本と世界は「みんなの為、人類の為に」というキュリー夫人の志を思い出して、その精神で問題に取り組めば解決の道があるはずだ。なぜならキュリー夫人の信念通り「科学は人類を幸せにするためにある」のだから。

## 優秀賞 中学生部門

### 想像力

不二聖心女子学院  
高 裕美子

津波十メートル。この波が、家族や家、車をすさまじい勢いでひきこんでいった。町ごと流されていく東日本大震災の悲惨な映像を前に、同じ日本人でありながらも、その映像が実際のものだとは想像しがたく、ただ画面の中の世界だけのように思えてならなかった。現在、日本だけに留まらず世界各国の情報が、家に居ながらにして、テレビやインターネットを通して知ることができる。だが私達は、その情報をはたしてどこまで自分のこととして受け止めていただろうか。「知る」ということをただそこまで終わりにさせては、いつまでもその知識は単なる情報にすぎない。キュリー夫人は、知ることを単なる情報で終わらせることはなかった。

キュリー夫人は「私は何が為されたかを調べるのではなく、為すべき何が残っているかが知りたいだけだ。」との名言を残している。第一次世界大戦中、彼女が四十七歳の時のことだ。ある日、医師が銃弾を受けた兵士の治療に困っていることをキュリー夫人は知り、すぐさま行動に移した。母親としての立場や、研究は二の次にして、第二の祖国「フランス」のために尽くそうと決心したのだ。着眼したのは、今まで治療には使われていなかったX線で、銃弾の破片のありかを透視することに使えるのではと考えた。そして、自らトラックに乗り込み、戦地で、病院から病院へとかけまわったのだ。

私はキュリー夫人のこの行動に感銘を受けた。ただ情報として受け止めていただけなら、たくさんの命が助かることとはなかったのだ。そこには「知る」ことに想像力を込めた彼女のぬくもりが感じられた。人間社会において一番怖いことは、この想像力が弱くなることではないだろうか。

現代の社会がここまで進歩したのは、歴代の科学者のたぐいまれな想像力が、さまざまな技術を発見し、実践へと導いてきたためである。キュリー夫人が人生をかけて研究した成果の一つに、ラジウムの発見がある。ウラン化合物が、放射線として、たえずエネルギーを発するという、まだ深く研究がすすめられていない不思議な性質に、いち早く興味をもった。そして、光線の強度がウランの量に比例することと、外的条件に左右されないという性質を発見した。そこから、この光線は原子の特性をもっているとの仮説をたて、それを証明するため、夫ピエールと協力して数々の実験を行い、新しい元素である、ポロニウムとラジウムを発見したのだ。それが発展して、現在の放射線治療などにつながっている。このように科学は、想像力を源として、仮説⇒実験⇒証明⇒実践というサイクルの繰り返りで、今日まで発展を続けてきたのだ。

身近でおきているけんかも、世界で起きている戦争も、絶え間なく争いを起こさせ、過激にしている原因は何なのだろう。争いごとの発端となる敵意や憎しみは、どこから来る

のだろう。お互いに冷静さを失っている時だったので、相手の立場や状況を理解せずに、行動してしまったのではなかったか。自分の立場だけで考え、相手の状況をおもんばかりで、権利ばかりを主張しては、関係はよくなる。自分も傷ついたら、もしかしたら相手も自分が原因で傷ついていたのかもしれない。創造力を少しでも働かせ、この気持ちがあれば、和解へと、一歩近づけると思う。

良い情報も、悪い情報も、ただ「知る」だけでは頭でっかちになるだけだ。「知る」ことに想像力を込めて、はじめて周りの世界がみえ、前進できるのだ。想像力が弱いと、科学の進歩はない。それどころか、人を理解することも、世界中で困っている人達の苦しみや悲しみを共有することも、学習することも、生きる喜びを感じることもできないのだ。理解するということは、すなわち想像するということなのだ。

学校で何気なく国語や日本史を勉強している私と、見つかったら処刑される危険を冒しながら自国ポーランドの言葉や歴史を勉強していたキュリー夫人。十九世紀後半のポーランドと現在の日本とを比べると、情報量は格段に増え、しかも簡単に得られるようになってきている。しかし、それがかえって私達の知ることに対する、どん欲な姿勢を衰えさせている気がする。親や先生から言われて、仕方なく勉強をやらされているというのなら変な話だ。勉強の目的は、昔から変わっていない。将来の自分や社会の役に立つよう知識を蓄え、想像力を養うためなのだ。歴代の科学者達のおかげでもたらされたこの技術進歩の流れを止めることなく、引き続き私達も様々な想像力を加えて、さらなる発展に貢献できるよう、勉強、実践していきたい。人を思いやれない、想像力のない社会なんてさぞかし住みにくいことだろう。

## 優秀賞 中学生部門

### キュリー夫人の願い

ミラノ日本人学校中学部

天野 双葉

三月十一日から、日本はまったく変わってしまった。東日本大震災、津波の被害、福島原子力発電所の事故。日本がこのように壊滅的な状態になったことは、戦争以外で未だかつてなかったことだろう。地震の余震におびえながら、放射能の目に見えない脅威にさらされている日本人たちはどれほど不安な毎日を送っているのだろうか。私の住むいたりあでも、ニュース映像は毎日のように報道されている。

あんなに安全だと言われていた日本の原発が自然の力にあっけなく、屈せざるを得なかった正に、その証明のような今回の事故。日本は、いろいろな意味で、今、世界中から注目されている。

放射性物質は一八九八年、ポーランド人のキュリー夫人によって発見された。当時ロシアに占領されていた祖国ポーランドにちなんで、ポロニウムと名付けられた。キュリー夫人の祖国への思い出は、今もポーランドの人たちの誇りだと思う。その発見は、人類に急激な素晴らしい進歩をもたらした。レントゲンやがん治療、植物の品種改良、医療器具の滅菌、半導体の製造など私達の暮らしを特別レベルアップしてくれた素晴らしい発見だと思う。

私は、六年生のときに夏休みのセミナーに参加して、直接放射線を見たことがある。真っ暗な所で、石から飛び出して光りを放つその姿はとても美しかった。まるで、生き物のように、線香花火のように飛び出してくる美しい光だった。神秘的だった。あんなに美しく神秘的な放射線だが、取り扱いを間違えると有毒なものになる。ものには使い方によっては役に立ち、時には自分に害を与える武器と化す。諸刃の刃そのものだ。

日本の原子力発電所は、一瞬の天災によって、私たち人類、そして、自然までもおびやかす武器と化してしまった。決して武器にするなど誰も、考えもしなかったと思う。人々の役に立ちたい、日本の産業をもっと強いものにしたい、日本をもっと豊かにしたいと、国を挙げて考えに考えた結果の原発だった事は、私にもとてもよく理解できる。しかし、最終的にはそれがすべて、武器となって、日本を襲うことになってしまった。

キュリー夫人は特許を取ることは、科学の精神に反することだからと言いラジウムの作り方の特許をとらなかった。とても貧しかったキュリー夫人なのに、大金持ちになれたはずなのに、それをしなかったキュリー夫人の科学に対する思いは、決して科学を私利私欲に利用してはならないという強いメッセージのように、私には受け取れた。すべての研究を人類のためと考え、個人の利益にしなかったキュリー夫人を、心から尊敬する。人類の為に自分の命もかけながら研究を続けたキュリー夫人の発見を私たちは決して、私たち自身に向けた武器に変えてはならない。人類の為になるための研究をもっともっと続けるべ

きなのだと強く思う。キュリー夫人の根底にある大きな愛を受け継いでいかなければならない。

自然と学問と家族をそして、祖国ポーランドを愛し、自分一人だけの利益を考える気持ちは持たなかったキュリー夫人。化学の進歩のためにつくした人生を素晴らしいと思う。だから、彼女は二度もノーベル賞を受賞することができたのだらうと思う。また、彼女の家族だからこそ、その遺志は引き継がれ、家族までもがノーベル賞を受賞したのだ。同じ女性としてとても誇りに思う。

私も、自然を愛し、家族を愛し、日本を愛し、人のためにつくせるような仕事をいつか持ちたいと思う。

私たちはキュリー夫人がのこしてくれた偉大な優れた遺産を、決して人類の害になるようなものに変えてしまってはいけない。

日本の未来を、美しい自然にあふれた未来に戻せるよう、日本の化学と技術の最善をつくして、日本に再びおとずれるはずの安全と平和と繁栄を取り戻して欲しい。そして、それは、今、世界中の人々が注目している事でもある。

日本だからこそできる最善を祈っている。

そして、それこそ、キュリー夫人が一番に願っていることだと思う。

## 優秀賞 中学生部門

### これからの「化学」

小矢部市立石動中学校

野師本 桃子

私は「化学」について考えてみようと思い、BL出版の「マリー・キュリー」(フィリップ・スティール著、赤尾秀子訳)を読んだ。マリー・キュリーはポーランドに生まれ、小さいころから活発でとても賢かったという。家もあまり豊かとは言えず、母国も危ない状況の中、「ラジウム」という物質を発見したことは、普通の人ではできなかった、逆に言えばキュリー夫人だからこそできたことなんじゃないかと思う。

私は小さい頃から今まであまり「化学」というものを知らなかった。また化学が私達に対してどれだけの影響を及ぼしているかということも分からなかった。しかしマリー・キュリーの人生を詳しく探ってみると「化学」というのは人類にとってとても大切な存在であることが分かった。

またキュリー夫人が発見したのは私もよくしっていた「放射能」だ。私のイメージでは「恐ろしい」という感じだが、実際はガンや体内を透かしてみるときに役立っていることも知った。

しかし、放射能は使い方を間違えば兵器になってしまうこともある。日本は唯一の被爆国で放射能の影響は計り知れない。爆弾にして悪用しようとする人達は本当の使い方を知らないのではないか、と思う。放射能を正しく自分達のために活用することを次世代に伝えていくことが私達の本当の「課題」だと思う。

キュリー夫人は女性だからという理由でノーベル賞受賞対象からはずされる場所だったという話もあった。日本でも昔から男尊女卑の風習があったという歴史は小学校の社会科で習った記憶がある。女性からの立場では男性と同じように化学を学んだり、発見したりしたいという思いがあるのなら世界全体で性別や年齢、国籍を問わず皆が平等に活躍できるようにするのも私達の仕事なのではないかと思った。

「化学」とは物質の変化について研究することだという。この世の中は物質によって成り立っている。その物質について私達が理解しようとするれば、未来を現在よりももっとよりよく出来るのではないかと思う。そうするためにはまず自分達が化学に興味をもち、追求することで後の世代につなげていくことが大切になってくると思う。

自分が生活していくうえで、疑問に思ったこと、知りたいと思ったことは惜しまず調べてみることで化学に関する課題を見つけることができるし、その物質についても見なおすことも可能なので私自身もそうだが、今の若い人達の間であまり聞いたことのない「化学」についてもう一度見直してみる必要があると思う。

私の場合、有名な化学者マリー・キュリーを知ったことで化学に対する関心が持てた。このことから、マリー・キュリーなどの伝記を、子供達に積極的に提供することも一つの

方法なのでは、と思った。好奇心旺盛な子供達だからこそ分かるようになる場合もたくさんあると思うので、小中学校の図書館、あるいは書店に伝記（特に化学者などの）を置くことで化学に親しむ機会が増えるのではないかと思う。また伝記を低学年にも対応するものを作るのも良いと思う。

これからの未来を造りあげていくのは私達で、良いものにするか、悪いものにするのかも自分達にかかっている。だから、化学の力を見直し、兵器にするために使うのではなくて、病気の早期発見や治療する上での正確な位置判断などで活躍できるよう導くのも私達の重要な役割だ。私も歯科医に行ったとき、乳歯と永久歯を見分けるとき、X線を当ててレントゲンを撮った経験がある。つまり放射能は日常生活に無くてはならない存在だということだ。そういうことも考えると化学というのはこれからの社会を造っていくなかで必要不可欠なものであることが分かった。

あえてマリー・キュリーは放射能、ラジウムを発見しても特許をとらなかった。それは世界の人に自由に使ってもらいたかったからだという。そんなキュリー夫人の配慮もあると知って私は悪用してなどいられない、もっといろんな人に良い影響を与えてほしいと強く感じた。私達が将来世の中をひっぱっていくとき、化学のすばらしさを発見しキュリー夫人が残してくれた放射能の使用法を、化学の大切さを世界の人々に伝えつないでいく事が自分達に与えられた大きな「使命」なのではないか。



御園生会長挨拶



蟻川選考委員長報告



最優秀賞授与(小学生・側島君)



ポーランド大使賞授与(中学生・金生君)



科学技術振興機構賞授与



化学工業日報社賞授与



祝辞:理化学研究所・野依理事長



祝辞:駐日ポーランド共和国チェホフスカ大使



祝辞:世界化学年大使・廣井君



ピアノ演奏:亀井さん



化学実験ショー:池本先生



マリー・キュリーポスター展示会

(本ページに掲載されている写真はすべて化学工業日報社様から提供いただいたものですので、無断で転載などをご遠慮下さい。)



入賞者記念写真

(本写真は化学工業日報社様から提供いただいたものですので、無断で転載などはご遠慮下さい。)